

第2回訪日フランス知事団

視 察 記 録

1967. 10. 11～10. 26

全 国 知 事 会

目 次

フランス知事団滞在日程	1
フランス知事団氏名・略歴	17
第1日 10月11日 (水) 東京着	25
第2日 10月12日 (木) 都内視察	25
第3日 10月13日 (金) 都内視察	29
第4日 10月14日 (土) 日仏知事会議	32
第5日 10月15日 (日) 日光国立公園	34
第6日 10月16日 (月) 東京～青森県	35
第7日 10月17日 (火) 青森県～秋田県	36
第8日 10月18日 (水) 秋田県～山形県	37
第9日 10月19日 (木) 山形県	39
第10日 10月20日 (金) 山形県～福島県	40
第11日 10月21日 (土) 福島県～東京	41
第12日 10月22日 (日) 埼玉県～宮城県	43
第13日 10月23日 (月) 宮城県～岩手県	44
第14日 10月24日 (火) 岩手県～東京	46
第15日 10月25日 (水) 神奈川県	46
第16日 10月26日 (木) 東京発	47

フ ラ ン ス 知 事 団 滞 在 日 程

昭和 42 年 10 月 11 日～10 月 26 日

10月11日(水) 第1日 (東京)	
18:10	東京国際空港着 (AF 272 便)
18:30 }	} 歓迎式 (到着待合室 O, N)
19:00	
19:30	帝国ホテル着
20:30	食 事
21:30 }	} 団長と局長打合せ
22:00	
(帝国ホテル泊)	
10月12日(木) 第2日 (東京)	
9:30	帝国ホテル発
9:50 }	} 明治神宮表敬
10:30	
11:00	在日フランス大使館訪問
13:00 }	} 昼 食 (大使館)
14:30	

15 : 00 }	} 自治省訪問 (大臣会見) } 毎日新聞社視察 帝国ホテル着 同 発 ホテル・ニュー・オータニ着 } 自治大臣主催レセプション (ホテル・ニュー・オータニ) (帝国ホテル泊)
16 : 00	
16 : 15 }	
17 : 15	
17 : 30	
18 : 15	
18 : 25	
18 : 30 }	
20 : 30	
10月13日(金) 第3日 (東京)	
8 : 50	帝国ホテル発
9 : 00 }	} 東京都庁訪問 (知事会見)
9 : 15	
9 : 35 }	} NHK 放送センター視察
10 : 05	
10 : 15 }	} 新宿副都心建設公社視察
11 : 15	

11 : 35	} 東京都知事主催昼食会 (椿山荘)
13 : 00	
13 : 20	帝国ホテル着
14 : 00	同 発
14 : 30	} 皇居参内
15 : 00	
15 : 20	} 外務省訪問 (大臣会見)
15 : 30	
15 : 40	} 国鉄新幹線コントロール・センター視察
16 : 40	
17 : 00	帝国ホテル着
18 : 40	同上発
19 : 00	外務省主催晩さん会 (赤坂 千代新)
	(帝国ホテル泊)
10月14日(土) 第4日 (東京)	
8 : 40	帝国ホテル発
8 : 45	都道府県会館着

9 : 00	} 日仏知事会議 (6階大会議室)
12 : 00	
12 : 00	} 昼食、休憩
13 : 30	
13 : 30	} 日仏知事会議
16 : 30	
16 : 40	} 記者会見 (6階中会議室)
17 : 10	
17 : 15	都道府県会館発
17 : 30	帝国ホテル着
18 : 15	} 知事会会長主催レセプション (帝国ホテル新館桃の間)
19 : 50	
20 : 00	} 歌舞伝観劇 国立劇場 (帝国ホテル泊)
21 : 30	
10月15日(日) 第5日(東京～日光)	
7 : 50	帝国ホテル発
8 : 00	東京駅着

8 : 15	東京駅発 (急行日光)
10 : 21	日光駅着
10 : 26	同 上 発
10 : 36	東照宮着
11 : 35	同 上 発
11 : 40	金谷ホテル着 昼 食
12 : 50	同 上 発
13 : 45	立木観音着
14 : 05	同 上 発
14 : 30	ボートハウス着
14 : 35	同 上 発
14 : 40	中禅寺金谷ホテル着 休 憩
15 : 10	同 上 発
15 : 30	華巖滝着
15 : 50	同 上 発
16 : 35	日光駅着
16 : 45	同 上 発 (急行日光)
18 : 57	東京駅着
19 : 15	帝国ホテル着
	(帝国ホテル泊)

10月16日（月） 第6日（東京～青森県）

8 : 40	帝国ホテル発
9 : 00	羽田空港着
9 : 30	同 発（国内航空 231 便）
11 : 20	青森空港着
11 : 30	同上発
12 : 10 }	} 市民会館食堂にて昼食会
13 : 40	
13 : 50 }	} 青森県庁訪問（県政説明、記者会見）
15 : 00	
16 : 00 }	} 黒石りんご試験場視察
17 : 00	
18 : 20 }	} 青森県知事招宴（郷土芸能の観賞） （於て丸大）
20 : 30	
20 : 50	浅虫温泉東奥館着 (東奥館泊)

10月17日（火） 第7日（青森県～秋田県）	
8：30	浅虫発
11：30	子ノ口着
11：40	同 発
\	} 船で十和田湖遊覧
12：45	休屋着
13：00	
\	} 休屋十和田観光ホテルで昼食
14：00	
	秋田県に引継
15：30	
\	} 同和鉱業松峯鉱山視察
16：00	
17：30	
\	} 八郎潟干拓地視察
17：40	
18：40	秋田市ニューグランドホテル着
19：50	秋田県知事招宴（アキタクラブ）
	(ニューグランドホテル泊)
10月18日（水） 第8日（秋田県～山形県）	
8：30	ニューグランドホテル発

8 : 45 }	三菱金属鉱業秋田製錬所視察
9 : 15	
9 : 25 }	秋田県庁訪問（県政概要説明、記者会見）
10 : 10	
10 : 20 }	県立美術館視察
11 : 05	
11 : 10 }	産業会館（県産品観覧）
11 : 40	
11 : 45 }	ニューグランドホテルで昼食
13 : 00	
15 : 00	酒田市着、山形県へ引継
15 : 30	本間美術館視察（刀剣その他鑑賞）
15 : 35 }	山居倉庫視察
15 : 50	
16 : 15 }	三川村阿部氏邸訪問
16 : 25	
17 : 10 }	春日神社表敬（黒川能観賞）
17 : 30	
18 : 50	温海町橘屋旅館着

19 : 30	山形県知事招宴（観光映画・民謡観賞） (橘 屋 泊)
10月19日（木） 第9日 （山形県）	
8 : 20	橘屋旅館発
9 : 10 }	致道博物館視察、酒井氏邸にて休憩
9 : 50	
10 : 30 }	羽黒山視察、斎館にて昼食（精進料理）
12 : 30	
15 : 30 }	県庁訪問（知事県政概要説明、記者会見）
16 : 10	
16 : 30 }	オリエンタル・カーペツト工場視察
17 : 00	
17 : 20 }	山形県知事招宴
20 : 00	
20 : 40	ホテル蔵王着 (ホテル蔵王泊)

10月20日（金） 第10日（山形県～福島県）

8：00	ホテル蔵王発
8：45 }	蔵王ライン、エコーライン等視察
9：00	
10：30 }	日本電気高畠工場視察
10：45	
11：05 }	米沢織工場視察
11：30	
11：40 }	米沢中央公民館（米沢肉で昼食、紅花作品 展示、火縄銃実演）
13：00	
14：00	福島県庁着
	} 知事県政概要説明
14：30	同 発
18：00 }	スカイライン経由 会津若松着 鶴ヶ城視察
18：30	
18：40	東山温泉 新滝旅館着
19：30	福島県知事招宴
	(新滝旅館泊)

10月21日(土) 第11日(福島県～東京)

8:00	新滝旅館発
8:10	} 花春酒造視察
8:40	
9:10	} 会津漆器工場団地視察
9:40	
11:10	} 裏磐梯五色沼視察
11:30	
11:40	} 高原ホテルにて休憩・昼食
13:00	
15:10	} 郡山駅着 記者会見
15:30	
15:41	郡山発 (急行第2いわて)
19:02	上野着
19:40	帝国ホテル着
	(帝国ホテル泊)

10月22日（日）第12日（東京～埼玉県～宮城県）	
9：00	帝国ホテル発
11：00 {	} 埼玉国体開会式参観（上尾市）
14：30	
16：40	羽田空港着
17：20	同 発（全日空 809 便）
18：25	仙台空港着
19：00	仙台ホテル着
19：30	宮城県知事主催晩さん会 (仙台ホテル泊)
10月23日（月） 第13日（宮城県～岩手県）	
8：30	仙台ホテル発
8：35 {	} 宮城県庁訪問、知事県政概要説明
9：10	
	仙台市内見物
10：15	塩釜港着
10：20	同発 海上保安部巡視艇で松島湾遊覧

11 : 00	松島着
11 : 05	瑞巖寺視察
11 : 40 }	松島パークホテルにて昼食
12 : 40	
12 : 45	松島駅着
12 : 54	同発（急行三陸）
15 : 23	盛岡駅着
16 : 25 }	岩手県庁訪問、知事県政概要説明
17 : 00	
17 : 50	花巻温泉佳松園着
19 : 00	岩手県知事招宴（鬼剣舞、鹿踊観賞）
（佳松園泊）	
10月24日（火） 第14日（岩手県～東京）	
8 : 30	佳松園発
8 : 45 }	谷村新興製作所視察（テレプリンター工場）
9 : 45	
11 : 25 }	小岩井農場視察、昼食（ジンギスカン料理）
13 : 30	

14 : 10) 14 : 50	} 小野染彩場視察
15 : 40	花巻空港着
16 : 15	同発 (国内航空 252 便)
17 : 45	羽田空港着
18 : 20	帝国ホテル着
(帝国ホテル泊)	
10 月 25 日 (火) 第 15 日 (東 京)	
9 : 00	帝国ホテル発
9 : 30) 10 : 30	} 東芝小向工場視察
10 : 50) 12 : 00	} 日本鋼管 水江製鉄所視察
12 : 50	フランス大使着
13 : 00) 14 : 30	} 在日フランス大使主催昼食会 (大使公邸)
14 : 50	帝国ホテル着 休息、買物等自由行動

	(帝国ホテル泊)
--	----------

備 考

タルン・エ・ガロンヌ県シユミツト知事は 22 : 30 発

エール・フランス 271 便にて離日

10 月 26 日 (木) 第 16 日 (東 京)	
8 : 30	帝国ホテル発
8 : 50	羽田空港着
9 : 00 }	} 歓送式 (空港待合室)
9 : 30	
10 : 30	羽田発 (AF 193 便)

フ ラ ン ス 知 事 団 氏 名 略 歴

1 団長 ジャン・シャペル氏 (M. Jean CHAPEL)

〔上級知事（職名でなく官名）〕
〔内務大臣付国防問題担当審議官〕

1910年 フィニステール県サン・ポール・ド・レオン生

れ

既婚 5児

法学士

レジオン・ドヌール3等勲章

1936年 官界入り

1942年 ボルドー地方知事の官房長

1944年 県副知事（ダックス）

1945年 ノール県事務総長

1948年 コレーズ県知事

1950年 ヴォーージュ県知事

1954年 オート・ヴィエンヌ県知事

1954年 フィニステール県知事

1958年 コンスタンチヌ県知事

1959年 アルジェ地方事務総長

1961年 コート・ドール県知事兼ブルゴーニュ地方
知事

1967年 内務大臣付国防問題担当審議官

2 ミッシェル・グロルマン氏 (M. Michel GROLLEMUND)

[ガール県知事]

1914年9月6日 スイス生れ

既婚 6児

法学博士、リヨン法廷弁護士

レジオン・ドヌール5等勲章

国家功労4等勲章

1939年戦役十字章

フランス感謝メダル

1944年 サヴォア県知事官房長

1944年 サン・ジャン・ド・モオリエヌ県副知
事

1946年 サヴォア県事務総長

1949年 ヴィール県副知事

1954年 ガール県事務総長

1955年 オラン県事務総長

1958年8月 ル・アーヴル県副知事

1961年4月 マルチニク県知事

1964年5月 ガール県知事

3 ラウル・モロー氏 (M.Raoul MOREAU)

[イオンヌ県知事]

1918年 イオンヌ県アリゼイ生れ

既婚 3児

法学士

レジオン・ドヌール 5等勲章

1938年 官界入り

1943年 中央行政書記官

1946年 高等官

1946年 県副知事 (サン・アマン・モンロン)

1948年 ガドルプ県事務総長

1950年 県副知事 (コニャック)

1951年 県副知事 (メーヌ・エ・ロワール)

1953年 県副知事 (サン・ゴードン)

1958年 県副知事 (シエルブール)

1959年 オート・ガロンヌ県事務総長

1961年 オート・マルヌ県知事

1967年 イオンヌ県知事

4 マルセル・ブラン氏 (M. Marcel BLANC)

[コレーズ県知事]

1925年リヨン生れ

既婚 3児

法学士

国立行政学校卒業

レジオン・ドヌール5等勲章

1947年 官界入り

1950年 ロワール県知事の官房長

1952年 県副知事(アンスニ)

1955年 コート・ドール県知事の官房長

1959年 アルジェリア問題事務総長

1961年 オート・ガロンヌ県知事の官房長

1964年 内務大臣官房技術参事官

1965年 コレーズ県知事

5 シャルル・シュミット氏 (M. Charles SCHMITT)

[タルン・エ・ガロンヌ県知事]

1922年モーゼル県フンドリンブ生れ

既婚 5児

国立行政学校卒業

レジオン・ドヌール5等勲章

1939年－1945年戦役十字章

1941年 官界入り

1950年 国立行政学校入校

1953年 高等官

1954年 県副知事 (コンフォレン)

1956年 県副知事 (モンモリオン)

1959年 ロ・エ・ガロンヌ県事務総長

1962年 オーブ県事務総長

1963年 委員会勤務

1965年 内務大臣官房付技術参事官

1966年 タルン・エ・ガロンヌ県知事

第1日 10月11日(水) 東京着

フランス知事団一行の乗ったエール・フランス機は予定より約1時間遅れ、夕方7時過ぎに東京国際空港に到着した。同機に乗り合わせたド・ギランゴ一在日フランス大使夫妻、外務省北原欧亜局長らに続いてジャン・シヤペル氏を団長とするフランス知事団5名は元気よくタラツプを降りた。

全国知事会を代表して出迎えた小畑秋田県知事らと固い握手をかわし、空港内特別待合室での歓迎会に臨んだ。

20時過ぎ頃宿舎の帝国ホテルに到着。知事会宮内事務局長との打合せをすませたあと、思い思いに日本での第一夜を過ごした。

第2日 10月12日(木) 東京都内視察

明 治 神 宮

公式日程最初の訪問箇所として、フランス知事団は明治神宮を訪れた。豊かな緑に囲まれた境内は、さわやかな秋晴れの陽ざしを受けて、厳粛な中にも明かるい雰囲気満ち溢れていた。

宮司さんに案内されて拝殿まで進む途中、一行は大鳥居その他神社境内の建築物に興味を示し、あれこれ質問をしていた。拝殿では、多勢の参拝者が見守る前で、神妙な面持のフランス知事諸氏が玉串奉呈を行なった。このあと御苑を観賞したが、自然を生かした日本庭園の美しさにしきりに感心していた。菖蒲のシーズンでないのが残念であった。

自 治 省

フランス大使公邸での打合会をすませると、一行は自治省大臣室を訪れ、藤枝大臣を初め同省幹部の歓迎を受けた。あいさつを交わすと早速日本の地

方行政制度等について質疑応答が行なわれた。

(問) 日本では県と市町村との間に自治体があるか。

(答) 現在はない。40年ほど前までは郡があつた。

(問) 東京のような特殊な自治体には他県と異なる行政権があるか。

(答) 23の特別区が各々市の役割を果している。

(問) 区長は普通選挙で選出されるのか。

(答) 区議会が選出し都知事の承認を得る。

(問) 東京と同様の機構を持つ大都市は他にもあるか。

(答) ない。

(問) 日本には人口500人程度の自治体はあるか。

(答) 近年市町村合併が進み人口1万人以上のものが多くなつた。

(問) 合併は法的強制で進めたのか。

(答) 有効的な立法措置によつて奨励した。

(問) 自治省あるいは政府は、地方へ代弁者を派遣しているか。

(答) 派遣している。

(問) 自治省は市町村に対してどんな役割を果すか。

(答) 勧告や助言を与える。また、地方税制度を設定し、交付税によつて財政的操作を行なう。

(問) 県議会は地方税を決定する権限があるか。

(答) 自治省が税率の標準を設け、各県が適宜上げ下げする。また、それ以外にも税を設定することができる。

(問) 交付税の他に、補助金をどのような割合で配分するか。

(答) 道路を県が作る時は $\frac{3}{4}$ を、河川の補修には $\frac{1}{4}$ というように事業の内容によつて異なる。

- (問) 同じ内容の事業ならば、どの県にも同じ率で補助するのか。
- (答) そうだ。しかし、災害のときなど特殊な場合は率を上げる。
- (問) 県知事が中央政府の方針に反したときはどうするか。
- (答) 政府与党と対立する党の候補者が知事に当選することはあるが、知事の仕事は限定されているので中央政府に反する行政はできない。
- (問) 自治省の役割は結局地方公共団体を管理することなのか。
- (答) 一般には府県の相談相手で、指揮監督はしないが、府県と密接な関係にある。また選挙の管理をする。
- (問) 公安維持の役割は知事が主体か。
- (答) 知事ではなく、警察本部が果す。予算は県が出す。
- (問) 自治大臣には公安維持の責任はないのか。
- (答) 自治大臣でなく国家公安委員長の責任であるが、慣例上自治相が国家公安委員長を兼任する。
- (問) 近年の急速な都市化現象についてお尋ねしたい。農村部人口は著しく流出しているか。
- (答) 非常にすごい勢いで流出しており、農村と都会の双方にとって重大な問題を提示している。
- (問) 大都市圏内の隣接市町村は共通の行政的問題をどう解決しているか。
- (答) 2、3の市町村が組合をつくって上水道の業務を運営したり、郊外の農村内に住宅団地を建設する際、まず市側が資金を出し、あとで徐々に村が買いとるなどしている。
- (問) 日本では、国が市町村の自主性をとり上げようとしたことがあるか。
- (答) かつて、一度あつた。

以上のようなやりとりのあとシヤペル団長から藤枝自治相へフランスのク

リスチャン・フーシエ内相から託された記念メダルが贈呈された。

毎日新聞社

同社ビルのロビーに入るとすぐ、仏知事一行は一様に「非常に近代的で美しい建物だ」と感想をもらした。応接室で次のような質問が提出され、柴田英文毎日主筆及び藤本渉外部長から回答を得た。

(問) この建物はいつ完成したか。

(答) 昨年(1966)9月に完成。2年間を費やした。資金は毎日新聞社40%、リーダーズ・ダイジェスト社40%、三和銀行が20%を分担し、用地は前二社が半分ずつ所有している。

(問) 毎日新聞の発行部数はどのくらいか。

(答) 約450万部。

(問) ラジオ、テレビの発達で発行部数が減ったか。また新聞社はテレビ局と密接な関係をつくって活動しているか。

(答) 発行部数の増加率は鈍ったがたいして影響うけていない。また当社は毎日放送という民間放送局を持ち、タイアップして活動している。

(問) 地方版はどのようにしてつくるのか。

(答) 札幌、大阪、名古屋、北九州等の支社で作っている。東京からはテープ、テレタイプ、電送、ファクシミリ等でニュースを送り増補している。

(問) テレビと新聞との競争によつて、ニュース速報はテレビに任せ、新聞はその解説、社説に努力を集中するような現象は生じているか。

(答) 確かにそういう傾向はある。近年新聞の号外はなくなつた。しかし、音や画面がどんどん変るテレビと違つて新聞は詳細で深い解説ができる強味がある。

(問) 広告収入の面でテレビの影響はないか。

- (答) 広告量自体も相当ふえているので大した影響はないが皆無ではない。
- (問) 貴社の収入は売上げと広告とがどんな割合になっているか。
- (答) 広告 53%、売上げ 47%。
- (問) フランスでは最近新聞の値段は自由になつて、日本の値段の約 2 倍だが、日本では自由に決められるか。
- (答) 自由には決定できない。
- (問) 台湾、韓国等の隣接国にも売られているか。
- (答) 少しだけ出ている。
- (問) ファクシミリの使用度は。
- (答) 相当広範囲に使われている。

このあと見学室で同社の通信網図板、地方向け発送システム図表などについて説明を聞いてから社内の各部局を見て回つたが、テレタイプ室では機械の操作等について熱心に質問していた。

シユミット知事は訪日 1 ヶ月ほど前に一寸した手術を受けたとのことで、かなり疲れを感じている様子であつた。

第 3 日 10 月 13 日 (金) 東京都内視察

東京都庁訪問

美濃部知事初め都庁の首脳部が待ち受ける知事室に入った一行は、首都東京の知事に強い関心を抱いていたようである。美濃部知事から大要次のような歓迎の言葉があつた。

「遠いお国からようこそおいでになりました。私は 40 年間にわたる学者生活のあと、周囲の情勢から都知事に就任することになつてしまいました。革新知事として注目されていますが全くの素人ですから知事としての職務につ

いてご指導願いたい。パリにも 5、6 回行つたがフランスの都市は世界でも最も美しい。一方、東京には問題が山積しており、その解決に苦心しているが、皆さんのお知恵を借りたいものです。問題点の陳列場のような所なのでよく見ていつて頂きたい。」

これに対してシヤペル団長は次のようにあいさつした。

「私達フランス知事一行をこのように歓迎して下さいありがとうございます。日本の地方行政に接触するにあたり、まず東京都を訪問できたことを喜んでおります。明日の日仏知事会議で両国地方行政の共通問題を比較することによつてお互に参考となる情報の交換ができれば幸いです。羽田に到着して以来、東京の立派な復興ぶりを目のあたりにして感嘆しております。」

このあと記念品が交換され、約 15 分間の会見を終つた。

NHK 放送センター

玄関で館野国際局長の出迎えを受け、スタジオ等の施設をざつと見て回つたあと、応接室で NHK 側から説明を受けた。つい最近フランスでもカラーテレビの本格放送が始まつたこともあり、カラー放送が全体の何%を占めるか、カラー受像機の普及度、メーカーの数、ブラウン管の生産量等について質問をしていた。また外国との番組交換、通信衛星を利用した宇宙中継等にも関心を示していた。

新宿副都心建設公社

重田忠保理事長のあいさつのもと、英語版の解説映画によつて、当公社の事業計画のあらましを説明した。

この公社の運営主体は東京都で、事業資金は銀行からの借入れ金によつてゐる。1960 年に始まり、1968 年 3 月に完了する予定で土地造成と道路整備等を行なつてゐるが、立体交叉、外部の高速道路との連結等道路計画

に力をいれ、新しいビジネス・センターとしての機能を十分に果せるように配慮している。

約 56 ヘクタールの面積を対象として実施されているこの大規模な都市改造事業が、いかに進捗しているかを視るため新宿駅西口前の地下広場や地下道を訪れた。一行の関心度も強く、予定時間が過ぎてもまだ去り難い様子であつたが、都市開発の推進が両国共通の重要問題となつている折でもあり、計画地区全部を見て歩く時間がほしかつた。

国鉄新幹線コントロール・センター

天皇陛下謁見と外務大臣訪問を終えた一行は、夕刻東京駅八重洲口の新幹線コントロール・センターを見学した。国鉄の湯川龍二新幹線支社長及び本社外務部の藤島部長から東海道新幹線について概略説明があり、東京一新大阪間を 13 分にまとめた仏語版の紹介映画が上映された。

質議応答の要旨は次のとおり。

- (問) 人口集中の著るしい都市圏内に新幹線の用地を得るには非常な苦心をしたのではないか。
- (答) 戦前から広軌の幹線を建設しようという構想があり、用地をある程度確保していた。また、極力既成市街地を避けるコースをとるよう配慮した。それでも全建設費の 40%は用地買収に使われた。
- (問) 用地の買収に住民は協力的か。それとも強制収用したか。
- (答) それは各地区の事情によつていろいろなケースがあつた。
- (問) 新幹線の運転間隔は何分か。
- (答) 理論的には 5 分、技術的には 7 分間隔の運転が可能だが、現在は 20 分間隔で運転している。

次いで、複雑な表示盤の並ぶ集中制御室に入つて、詳しい説明を聞いたあ

と、「緑の窓口」の現場業務を視察してホテルに戻った。

第4日 10月14日(土) 東京

日仏知事会議

午前9時から午後4時半まで都道府県会館6階大会議室で、第2回日仏知事会議が開催された。日本側からは桑原愛知県知事を初め19名の知事が出席し、終日熱のこもった討議が行なわれたが、その模様は会議の議事録を参照されたい。

なお会議終了後に行なわれた記者会見でシャペル団長は次のように述べた。「本日の日仏知事会議で討議された問題は、討論の成果をフランスにおける地方行政で生かすことができると思う。特にフランスにおける地方財政平衡基金の問題は、日本の知事さんも関心が強いようなのでちほど参考資料をお送りしたい。また、市民防衛については、国家的に見ると日仏の制度は異なっているが、県単位で見れば似かよっていると思う。近年都市公害の深刻化に伴って、市民保護の問題は現在フランスで非常に重要な問題となっている。」

さらに、記者団から具体的質問がいくつか提出され5名の仏知事は交々応答した。その要旨は次のとおり。

(問) 首都圏整備問題に関して、フランスでは公共施設の整備が人口増加に追いついているか。

(答) これはフランスでも問題になっている。その対策としてパリ地方をいくつかの地帯に分け、優先開発地帯を設定して重点的に整備を行なっている。また資金貸し付け等の財政措置も講じている。

(問) フランスの県知事が公選制でないことは、国民的伝統から見て奇異に感

じるが、公選にしようという動きはないのか。

(答) フランスにおける県知事官選の制度はナポレオン1世が創設したもので、それ以前からも中央集権の動きが顕著だった。この制度は、国民的伝統にそつたものである。たゞ一度、第二次大戦直後1946年の新憲法制定当時、少数派だったが知事公選制を提案する者があつた。しかし、世論は動かなかつた。フランスの県知事は、公選による地方議会の執行機関でもあるから、地方住民の意志を無視するものではないということを銘記されたい。学者の間でもいろいろ研究されているが、大多数の者は現在の制度を民主的、能率的なものと考えている。

(問) 東北地方の視察については、どんなことに関心があるか。

(答) 知事会の準備した東北地方視察日程は完璧で、すべてが興味深い。

(問) フランスの県は、地方税を徴収する以外、国から交付税をもらっていないのか。

(答) 現在、日本のような交付税制度はないが、国庫補助金と平衡交付金の制度はある。そのへんの制度上の是非はともかく、一般的に納税者は種々の税金を幾重にも払っているので結局は交付税そのものはそれほど大きな問題とはならないのではないか。フランスにおいても地方公共団体の財政力均衡化には気を配っている。

国 立 劇 場

知事会会長レセプションのあと、三宅坂の国立劇場へ歌舞伎観覧に出かけた。だしものは「彦山権現誓の助剣」で、ド・ギランゴー在日フランス大使夫妻をまじえた一行は熱心に観覧していた。しかし言葉が分からないため内容が難解だつたらしく「非常に美しい舞台で、おやまの演技なども興味深く感じたがどうも話の筋が分からなかつた」と述べていた。

第5日 10月15日(日)

日光国立公園

東京駅8時15分発の急行日光号で、栃木県の横川知事と共に日光へ向かった一行は、車内でものんびりと沿線の風景を楽しむよりもむしろ昨日の日仏知事会議で問題となった諸点について熱心に再検討していた。フランスの知事は大変に研究熱心であるとはかねてから聞いていたが、あらためて感心させられた。

特に、地方公共団体の財源問題について、日本側との質議応答がかみ合わない部分があったので、この議題の主担当者であるブラン知事がシャペル团长とじっくり話し合っていた。

日光駅前の沿道には日の丸と三色旗の小旗を手にした小中学生が多勢並んで歓迎した。一行は非常に喜んで手を振って応えた。

丁度日曜日とあつてどこも混んでいたが、東照宮では神官の矢島清文氏の案内でスムーズに見学をすることができた。陽明門を初め、色彩豊かな建築物や精緻な彫刻物の多く見られる東照宮が相当気にいつたらしく、「東京から随分離れた山間に、これだけぜいをつくした華美な文化財がのこされているとはすばらしいことだ。莫大な費用がかゝったことだろう」と感心していた。

輪王寺の奥庭では、門跡の菅原栄海氏が出迎え、寺の沿革、お茶の立て方等についてフランスに留学したことのある僧侶（福井文雅氏）がフランス語で説明し、一行は大変喜こんだ。またその間地元の娘さん4人が琴の演奏をして日本情緒を満喫させてくれた。

金谷ホテルでの知事主催昼食会の後中禅寺湖へ向つたが道路の混雑がひどいので、県警の協力にもかゝらずバスは思うように動けなかつた。しかし、

途中くもり勝ちであつた空が、湖畔のボート乗場に着いた頃再び晴れてきたのは幸いだつた。遊覧船で湖上に出ると、折から紅葉の最盛期とあつて周囲の山々の秋色は見事だつた。青く澄んだ空にそびえる男体山は特に印象的であつた。

道路の混雑で時間がなくなり、中禅寺湖も早々に切り上げたが結局華巖ノ滝を見る時間がなくなつてしまつたのは残念であつた。

駅へ戻る途中休憩したホテルのそばで、一行は故国へのみやげものを買つていたが、江戸中期の大皿、正絹の帯等を買つた知事は「なかなかの掘り出しものだ」とばかりにごきげんであつた。

横川知事初め地元の人々に見送られて帰りの列車に乗りこんだころ、秋の陽は落ちてもう夕闇がたちこめていた。

第 6 日 10 月 16 日 (月) 東京～青森県

気流の関係でかなりゆれがひどかつたが、青森空港に無事着陸、県の首脳部の方々の出迎を受けた。小休止したのち市民会館食堂での知事主催昼食会に臨んだ。

食事を楽しみながら和やかに話し合いが行なわれた。一行のうちシヤペル団長を除く 4 名は、農業県の知事であるため、青森県の主要産物である米とりんごの生産については強い関心を示していた。牧畜の肉牛が話題になると、コレーズ県のブラン知事が、自分の県に多いリムーザン種を盛んに推薦していた。

青森県庁訪問

竹内知事から県政の概要について説明を受けた際、一行は特に青森県から東京方面への人口流出の問題と市町村合併の状況に関心を寄せていた。また、

青函トンネル建設工事については、映画によつて紹介したが、その工事規模の大きさにはかなり驚いた様子だつた。英仏海峡の海底トンネルが計画されているだけに関心も深く、調査孔の大きいことの原因、岩質の種類、掘進機のメーカー、止水法、本トンネルの勾配等について詳細な質問を行なつた。

県りんご試験場

黒石市にある県のりんご試験場に着いたのはもう夕暮れ時であつた。農学博士号をもつ木村場長の案内で各種のりんごが実っている場内を見て回つたが、特にタルン・エ・ガロンヌ県のシユミット知事は自分の県もりんごの産出県であるため熱心に質問を提出し、各品種をさかんに試食して味を比較していた。感想として、「当県では大粒の、色も美しい品種が開発されていることはとてもうらやましい」と語つていたが、同時に、「やや小粒だが味のよい安価な品種をもちながらなぜ量産しないのか」と質問したのは、フランスのりんごは味はよいが非常に小粒なので、どちらかと言えば小粒のものに親近感を持つているためのようであつた。

第7日 10月17日（火） 青森県～秋田県

竹内知事に付きそわれて奥入瀬溪流の秋色美を十分堪能し、子ノ口から休屋までは船で十和田湖を遊覧した。休屋の十和田観光ホテルに着くと、一行は秋田県の小畑知事の出迎えを受け、昼食会に臨んだ。

ここで青森県から秋田県に引継がれ、バスに同乗した小畑知事から秋田県の米産、市町村合併の状況等について説明を聞いた。

秋田県最初の視察箇所として、同和鉱業松峯鉱山（所長伊藤春雄氏）でフランスの技術を取り入れた黒鉱残滓流送装置その他を見学した。

再び海岸沿いの国道を南下し、八郎瀉干拓地へ向かつた。明かるく元気の

良いバスガイド嬢が秋田県の民謡や伝説を披露して一行の喝采を浴びた。

八郎潟干拓地の北部排水場へ着いたときは、もう日がとつぷり暮れて、干拓地を見わたすことができなかつたのは一寸残念であつた。しかし、北部支所長の沢柳宣裕氏より、色分けした説明図を使つて要領を得た解説があつたので一行もこの干拓農地整備事業の規模の大きさ、完成後の社会的重要性等について充分理解することができたようだつた。

秋田市内のニュー・グランド・ホテルに着くとすぐ、郷土芸能「竿灯」の実演が特別に行なわれ、一行の旅情を慰めた。

第 8 日 10 月 18 日 (水) 秋田県～山形県

秋 田 県 庁 訪 問

予定より 30 分早くホテルを出て、三菱金属鉱業秋田製錬所（所長市田則光氏）を視察したあと、秋田県庁を訪れた。小畑知事から県政の概要について説明を受けたのち記者会見に臨んだが、次のようなやりとりがあつた。

(問) 十和田湖を初め東北地方の秋の印象はどうか。

(答) 日本の観光資源の豊富さにおどろいた。道路の舗装状態もよく、観光開発の努力に感心した。紅葉の景色はフランスにも類のないほどすばらしい。カラー写真を沢山とつたが、良いコレクションになると思う。

(問) 黒鉱視察の感想は。

(答) 秋田県の鉱物資源が豊かで、将来性もあると感じた。フランスの技術を採り入れた鉱山があるのをうれしく思った。

(問) 日本の後進地域を回り、各県の知事と話し合つてどう感じたか。

(答) 普通日本へ来ると関西地方へ案内されることが多いが、私共を東北地方へ案内してくれた全国知事会の方針は適切であつたと思う。この地方は

決して後進地域ではない。私（シヤペル）を除く4人の知事も各々の在任県でこの地方の知事と同様の問題点をもっているので種々参考になったと思う。

県立美術館

フランスに帰化した藤田嗣治画伯の作品を中心とした県立美術館（館長平野政吉氏）では、他に西欧の著名な画家の作品も数多く見られたので一行は大変感心していた。藤田の作品のうち、黒を用いて成功を博し、フランス政府から表彰を受けた「眠れる女」、「優美神」等は、特に一行の関心を引いたようだった。

産業会館で県産品を観覧し、みやげ物など買ったあと、ニュー・グランド・ホテルで昼食をとった。食事中も、地方公務員の身分、任免、給与の現状、地方財政の実情等について熱心な質議が行なわれたが、回答に当られた小畑知事から「地方行政制度は戦後改善されたが、肝心の財源を国が握っている。何をやるにも国に依頼しなければならない。そのために住民の自治意識も低下しているようだ。これは目立たないことながら日本の行政に内在する大きな問題点である。つまり制度は良くても民度がそれにそぐわない実情である。」という主旨の発言があつた。

秋田市から山形県の酒田市へ向かつて、日本海沿いの国道を快走するバスが途中でストップしたのでおやつと思つていると山形県の安孫子知事が乗りこんでこられた。ここで小畑知事は下車され、山形県に引継がれた。

安孫子知事は車中でいろいろと山形県の現状について説明し、一行もあれこれと質問を行なつた。

酒田市の本間美術館（館長本間裕介氏）で小休止したあと刀剣その他を鑑賞し、次いで江戸時代から有名な米倉である山居倉庫を視察した。

三川村の旧家阿部徳三郎氏邸では、村長の佐藤東蔵氏はじめ土地の老若男女と直接対談できたことは一行にとって非常に楽しい体験だったようだ。可愛い振袖姿の幼女5、6人を交えて記念写真をとったあと櫛引町の春日神社を訪れ、農民の郷土芸能として有名な黒川能を観賞した。夕闇に包まれた社殿は、大ろうそくの光に照らされて能舞台になり、郷土色豊かで素朴な能が演じられた。

第9日 10月19日(木) 山形県

先ず鶴岡市の致道博物館では、館長犬塚又太郎氏の案内で民俗資料室、考古資料室等を視察し、酒井氏邸でしばらく休憩した。次の訪問箇所である羽黒山神社では、宮司の大川武雄氏の案内を受け、国宝の五重塔前で記念撮影し、合祭殿で神前礼拝をすますとホラ貝を吹き鳴らす山伏の先導で齋館に入った。ここで精進料理の昼食をとり山形県庁へ向かった。

山形県庁訪問

知事室へ通された一行は、市町村合併、県の財政、産業振興策（特に工場誘致の方策）等について質問を行ない安孫子知事から詳しい回答を得た。

記者会見で山形県の印象を問われると次のように語った。

「安孫子知事さんのご配慮で、住民の日常生活に直接触れる機会を得られたことは大変うれしい。古い伝統に富み、観光に適した地に恵まれていると思う。青年層の県外流出等重大な問題をかゝえてご苦勞も多いと思うが、産業振興策を成功させて問題解決に一步ずつ近づくように祈る。また、市町村合併については山形県の成功を参考としたい。フランスでは5,000万の人口で38,000の市町村を数え、合併は遅れている。種々の抵抗があつて進展しにくいのが、山形県での成功は大いに励みになる。」

夕刻、山辺町のオリエンタル・カーペット工場を訪れ、社長の渡辺順之助氏より説明を聞きながら、高級じゅうたんの美しさに感嘆させられた。

第10日 10月20日（金） 山形県～福島県

この日も朝から快晴に恵まれて、蔵王ライン、エコーライン等の観光ルートからの眺望は非常によかった。一行は道路の良いことに感心しながら景色に見とれていた。お釜を背景に記念撮影をしてから山を下り、途中南陽市内のぶどう園に立ち寄った。南陽市長佐藤義一氏から贈呈されたおいしいぶどうを食べながら次の視察箇所である日本電気高島製作所へ向かった。この工場はトランジスターの専門工場で、近代的な設備をそなえ、若い女子を主な労働力にして稼動している。県の工場誘致策成功の一例である。

米沢市では、まず初めに、米沢織として有名な絹織物の工場（佐藤織物）を視察した。旧藩時代からの伝統に支えられたこの地方の中小工場では、高度技術による高級品を流行を追って生産し、付加価値の増大を狙っている。そのような状況が、フランスのリヨンとよく似ているので、一行は興味深そうに説明を聞いていた。

次いで同市の中央公民館に入つて、旧米沢藩に伝わった上杉雷筒と呼ばれる火縄銃の実演を観たり、天然の染料として再び見直されてきた紅花作品の展示を鑑賞したあと、米沢牛肉のすき焼で昼食が行なわれた。昼食の間、中庭に整列した女子高校生のグループが合唱をして一行の耳を楽しませてくれた。

福島県庁訪問

米沢から福島までの栗子ハイウエーは一部未完成の箇所では旧道を利用するため時々バスの揺れ方がひどかったが景色も良く、全線完成後はさぞ快適な

峠越えができるだろうと思われた。

福島県庁に着くと早速貴賓室に通され、木村知事から県の工業開発計画（特に常磐郡山新産都市計画）等について説明を聞いた。その他原子力発電の開発、観光開発等農業県からの脱皮に着々成果を収めている状況はフランス知事一行にとつても非常に興味深いものようであつた。

このあと磐梯吾妻スカイ・ラインを通つて会津若松市へ向かつた。好天に恵まれて途中の車窓からの眺望はすばらしかつた。一行は、道路その他観光施設の整備状況が立派であると感心していた。小野川湖、秋元湖、檜原湖等の湖を見下す湖見峠を經由して会津若松市内に到着した時は、すでに夕闇がたれこめていた。

鶴ヶ城天守閣は照明灯に照らし出されて白壁がくつきりと浮かび出ていた。横山武会津若松市長の案内で天守閣内部の陳列品を觀賞し、最上階から市内の夜景を眺めて過去への郷愁にひたつたあと、今夜の宿泊地東山温泉へ向かつた。

第 11 日 10 月 21 日（土） 福島県～東京

旅館を出る際、一行は女中さん達との別れを惜しんで住所をメモするなどなかなかの気の入れようであつた。

花春酒造（代表取締役宮森常八氏）では、工場を視察する前に社長邸の奥座敷に通され、日本酒の歴史、酒造の苦心談や問題点、当社の概況等について説明を聞いた。工場内では仕込み中の酒を味わつてみて、「一寸ずつぱいがいい味だ」と言つていた。

会津漆器工場団地では山田源次理事長の案内で漆器製作工程を見学した。うるしの原料の供給先、当団地製品の年間売上高その他について説明を聞いて

ていたが、大量生産方式をとりながらも芸術的価値を失わない技術の高さに感心したと一行は語っていた。

裏磐梯五色沼付近は、丁度観光シーズンの週末とあつて相当の人出であつた。人波にもまれるようにして沼のほとりまで下り、美しい水面を見つめた。シユミット知事に「五色を見分けられますか」と聞くと「三、四色は見分けられるが、第五の色はどうも見つからない」という。あいにくその日は最も深味のある色がはつきり出ていないとのことだつた。

そこから程近い高原ホテルに着くと、昼食前に裏山を自由に歩き回りたいという一行の希望が出され、ほんのわずかだが自由な時間を過してもらうことにした。

昼食後郡山へ向かう途中で猪苗代湖畔の野口英世記念館（館長小林七之助氏）を訪れた。フランス領南西アフリカで黄熱病の研究に尽力した関係で、フランス本国政府とも交流のあつた野口英世のことを一行五名の知事は初めて聞いたと言つていたが、西欧では日本のことが余り知られていないことの一例だろうと思われる。

郡山駅では駅長室に通されて、郡山市長秀瀬日吉氏の歓迎のあいさつを受けたあと記者会見に臨んだ。

（問） 東北四県視察の感想は。

（答） 日本の生活の特徴を真に理解できたのは、東北地方を回つたおかげと思う。よくこの地方を後進地域というが、そうは思わない。青函トンネル、八郎潟干拓などの公共事業の規模の大きさに感銘を受けた。観光道路もよく整備され、工事進行中の道路は国際水準のものだと思う。また、この地方における農業の重要性、特に米作、りんご栽培の重要さは印象的である。各種工場、鉱山の視察も参考になつたし、美術館、博物館、寺

院等で視た文化財は素晴らしいものだった。黒川能や会津鶴ヶ城を見て、

この地方の人々の歴史的伝統に対する敬意の深さを感じた。

翌日の埼玉国体開会式に出席するため埼玉県へ向かう木村知事と共に急行「第2いわて」で帰京した。

第12日 10月22日（日）埼玉県～宮城県

埼玉国体開会式参観

関係者の期待どおり、この日は快晴に恵まれ絶好の開会式日和であった。

上尾市にある会場の県立競技場施設は規模も大きくよく整備されている。スタンドに入るとすぐ、一行は感心した面持で「これは日本で一番の競技場か」と質問してきた。

グラウンドで次々にくり展げられる県民各層のマスゲームは色彩豊かで、よく訓練が行届いているので一行はさかんに「美しい」、「素晴らしい」を連発し、惜しみなく拍手を送っていた。

各県選手団の入場行進、大会旗の入場と開会式もクライマックスに達する頃、一行は報道陣の質問に答えて次のような感想を述べていた。

「この大会は、フランスの各県単位の競技会とは全く比較にならないほど大規模なものである。開会式の参加者をみてもその層が広く、マス・ゲーム等の内容も豊富で色彩が美しいのが印象的である。訓練が十分にされているのかプログラムの進行がきつちりと予定時間どおり運ぶことにも感心した。これだけの全国的な大会はフランスでは一寸真似のできないものだ。」

こうして、各種の演技を観ながら楽しい時を過ごした一行は、午後2時過ぎ競技場を出発し、仙台への飛行機に乗るため羽田空港へ向かった。

夕刻ほど予定時に仙台空港に着くと、山本副知事を初め宮城県関係者に迎

えられて宿舎仙台ホテルに向かった。

第13日 10月23日(月) 宮城県～岩手県

宮城県庁訪問

ホテルから県庁への途中、一行は市内の街路がゆつたりして、樹木が多いことに感心していた。

県庁応接室で高橋知事から宮城県の県政概要について説明を受けた。特に、農業の近代化と工業育成策、観光開発等県の重点施策については、一行も熱心に質問を提出していた。

仙台市内及び松島湾視察

緑深い青葉城趾から市内を展望したあと、塩釜港から海上保安部巡視艇に乗って松島湾を遊覧した。松島では伊藤町長の案内で瑞巖寺を興味深く視察した。パーク・ホテルでの昼食会のあと、急行三陸で松島駅発盛岡へ向かった。

岩手県庁訪問

盛岡駅のホームには、千田知事を初め岩手県の首脳部が出迎えて、フランス知事一人一人と固い握手をかわした。駅前広場で警察音楽隊の儀礼演奏を聴いたのち県庁へ向かった。

県庁の知事室で千田知事からかなり詳しく県政説明を聞いた一行は、岩手県の林業振興策、ダム建設計画、中小企業に重点を置いた経済成長策、保健衛生施策等について具体的な質問を提出した。

次いで一行は記者会見室において東北地方の全体的印象をたずねられると、「各県における農業初め産業振興の努力、各種の大規模な工事の推進に感心した。」と述べ、これまでに回った五県それぞれの印象としては次のように語った。

青森県 ー 青函トンネルの工事は非常に大規模で、完成後は北海道と本州の双方に利益をもたらすだろう。農業近代化の努力の一例として視たりんご試験場は、西欧にも同水準のものがある。(シヤペル団長)

秋田県 ー 同和鉱業松峯鉱山の黒鉱残滓流送装置がフランスの技術を取り入れていること、三菱金属秋田製錬所の電気処理技術、オランダの技術による八郎潟干拓等が印象的だったが、特に八郎潟の農地開発は社会的にも大きな意味をもっていると思う。(ブラン知事)

山形県 ー 古くからの伝統的な面と近代的な面とが巧くミックスされた日程により、県内各地の住民に広く接触できたことは有意義だった。(シユミット知事)

福島県 ー 観光地の施設や道路が完備されており、磐梯吾妻スカイラインのコースは国際的水準の質とスケールをもっていると思う。会津若松城の視察によつて、県民の過去への愛着の強さを感じた。会津の漆器工場では、大量生産工程をとりながら美術的価値を失わないよう配慮していることに感心した。(モロー知事)

宮城県 ー 仙台という都会が、広い道路と緑地帯を備えた都市計画をもち、西欧的な性格が強いこと、県の工業発展計画のうち、二つの新港建設計画等が印象に残った。(グロルマン知事)

また、「岩手県の県政説明のうち、特に、林業、牧畜等の産業振興策と、保健衛生施策に力をいれていることに感心した。」と述べた。

その夜は花巻温泉の旅館「佳松園」に泊った。千田知事主催のレセプションに先立つて、郷土芸能の鬼剣舞と鹿踊りが内庭で披露された。一行はこの地方色豊かな踊りを外気の冷たさも忘れて観賞していた。

第14日 10月24日（火） 岩手県～東京

この日はまず花巻市内の谷村新興製作所を訪れた。この工場は日本におけるテレタイプ（テレプリンター）のトツプメーカーである。展示室で、緒方広報渉外部長から、各機種ごとに用途、性能などの説明を聞いたあと工場内をざっと一巡した。このような近代的な製品を作る工場がこの地方にあるとは思わなかつたらしく、テレタイプの発明者がボーというフランス人であることもあつて、一行は相当強い関心を示していた。

昼一寸前に、南部片富士と呼ばれる岩手山を目近にみる小岩井農場（場長石原近治氏）に着いた。広い構内をバスで回りながら説明を受けたが、日本一産乳量の多い乳牛に感心したり、早産して特別保育されている子牛の頭を撫でたり、乳牛の畜舎が一番興味深かつたようだ。紅葉した樹々に囲まれた戸外での昼食会は風が一寸冷たかつたが、野趣に溢れたジンギスカン料理を楽しむことができた。一行も大いにうちとけて冗談をとぼしていた。

午後は古くからの型染技術を伝える小野染彩所（社長小野三郎氏）を視察した。陳列された作品のうち、装飾用染物のデザインや色調の美しさが一行の目を奪つていた。和服地はもちろん袋物類その他この技術を用いて染色を行なっているが、ここの製品は国内需要ばかりでなく海外への輸出も多いという。古い技術を受継ぎながら現代感覚に合つた作品を創り出す努力を怠らないようにしているとのことである。

第15日 10月25日（水） 神奈川県

東芝小向工場

工場の正門前で神奈川県の津田知事と合流した一行は、応接室に通された。

先ず津田知事から県勢概要の説明があり、次いで鈴木工場長が同社の概況、特にカラーテレビ受像機生産の現状について話した。一行はカラー受像機を生産、販売、従業員の待遇等について具体的な質問を提出し工場側から詳細な回答を受けた。このあとテレビ組立作業工程を中心に工場内を見学した。

日本鋼管水江製鉄所

同じ川崎市でも港に面した所にあるこの工場は、高い水準をゆく日本製鉄工場の中でも近代的な設備をそなえている。

当製鉄所の概況について所長高畑幸男氏から説明を聞いたあと近代的な機械設備から絶え間なく薄板が作り出される現場を見学した。一日 3,600 トンを産出する高炉から流れ出る灼熱の鉄がまたたく間に圧延成型されてうす板に作り上げられる工程は、見る者の目に日本の工業生産がいかにダイナミックな発展を続けているかを強く印象づけたようだった。

なお、一行のうちシユミット知事は、一足先に今夜帰国の途に着くため、東芝小向工場の視察終了後フランス大使館へあいさつに向かった。

第 16 日 10 月 26 日 (木) 東 京 発

フランス知事一行の来日以来早くも半月経過し、いよいよ帰国の日となった。昨夜先発したシユミット知事を除く 4 名の知事は殆ど疲れも見せずさわやかな表情であつた。

空港特別待合室での歓送会で、宮内知事会事務局長の歓送の辞にこたえてシヤペル団長は次のようなあいさつを述べた。

「私共一行は、局長さん以下皆様のご親切な配慮のおかげで非常に楽しく有益な旅行を無事にすませることができましたことを心から感謝しております。

いよいよ日本を離れる時が来てしまい、私の心は今日の曇り空のようにも

の悲しく沈んでいます。

マルコ・ポーロのような旅行記が書けるかどうかわかりませんが、大変すばらしい思い出をもつことができました。

東北地方の視察旅行では、米作を中心とした農業が豊かに展開され、のどかな田園風景が見られると共に、工業の開発が熱心に進められていることがよく分かりました。公共施設の中でとくに感じたのは道路の整備のよさであり、それによつて東北6県は繁栄されることを信じております。

日仏知事会議のテーマにもなった両国共通の諸問題については、お互の実情を比較検討することによつて参考となることがらをいくつか引き出せるのではないかと思っております。

今回の滞在日程は非常に立派に組織され、内容の豊かなものでした。多少疲れはしましたが全員元気です。実際、普通の旅行者が3ヶ月かけても得られないほど密度の濃い視察旅行を僅か2週間でさせていただいたと思います。

帰国しましたらさつそくフーシェ内務大臣に、この交流がすこぶる有益なものであり、今後も末長く継続するべきものであることを伝えたく思っております。」

こうして、午前10:30羽田発のエール・フランス機に乗りこんだ一行は、何度もタラップまで姿を見せては、見送りの人々に手を振つたり、カメラのシャッターを切つたりしてなごりを惜しんでいた。